

公益社団法人日本天文学会 代議員総会議事録

日 時：2013年5月26日（日） 13:00-15:00

場 所：東京大学理学部1号館中央棟3階336号室

出席代議員：岡村、海部、柴田、奥村、河合、半田、梅村、吉田（道利）、馬場、井上、吉川、福井、杉山、佐藤、土居、山田、櫻井、寺澤、芝井、富阪、吉田（直紀）、藤沢、百瀬、長尾（以上24名）

欠席代議員：渡部、田村、小久保、常田、望月、市川、観山、牧島、太田、林、縣（以上11名）

また、中村・本原庶務理事、熊谷・松尾会計理事、茂山 PASJ 理事、西野事務長、黒岩事務員が出席した。なお、櫻井会長と奥村・山田副会長は代議員を兼任している。

I. 確認事項など

議事に先立ち、出席者が24名で定足数を満たし、本会が成立することが確認された。また定款に基づき、以下のとおり議長と署名人の確認がなされた。

議 長：櫻井 隆

署名人：櫻井 隆

II. 報告

II-1 理事会報告（中村）

5月11日に開催された理事会での協議事項や決議事項等について報告された。報告内容は以下の通り。

i. 年会における国際セッションについて（櫻井）

年会初の国際セッション（日韓合同）が埼玉大学で3月に盛況のうちに開催され、特に大きな問題もなく滞りなく取り行われたことが報告された。また、今後も国際セッションを維持・拡張する予定であることが説明された。

これに対し、東アジアとの天文学交流は今後ももっと積極的に進めるべきであるとの意見が出された。なお、国際セッションの報告は天文月報に投稿する予定である。

ii. 早川基金の運用方針について（中村）

今年度から、若手への補助の内容を拡充する方向で進める予定であることが報告された。これまでは一部例外を除き、採択者には滞在費と交通費の片方のみ支給されることになっていたが、ここ数年寄付金が増え、運用資金が増えた。これを有効に使うために、早川基金選考委員会とも情報交換し、滞在費と交通費の両方を支給する場合も設ける方向で議論を進めていることが報

告された。現在年間約 300 万円の予算であるが、採択率を従来水準で交通費と滞在費の両方をサポートするように運用すると、年間 500 万円程必要と算出されている。今後の現実的な運用方針は早川基金選考委員会とも意見交換し、決める予定であると説明された。

また、今後は広く寄付を募り、運用を継続する必要があるとの意見が出された。なお、5 月 15 日午後、大口寄付者宅を会長と会計理事が訪問し、今後の用途について意見交換を行ったことが報告された。また、寄付者の意向を文書にしてもらい、それを踏まえて今後の運用を考えたいとの説明があった。

iii. 全国同時七夕講演会について（中村、山田）

今年度も全国同時七夕講演会を主催する予定であり、すでにホームページを立ち上げ、講演募集のアナウンスを行ったことが報告された。今年の運営状況も鑑み、全国七夕講演会の実行体制を今後はより堅実なものにしていく予定であることが説明された。

II-2 公益社団法人日本天文学会 2012 年度監査報告（尾中）

2013 年度 4 月 24 日に監事 2 名、庶務理事 2 名、会計理事 2 名出席のもと、事業報告と決算報告を受け、正当であることを確認したことが報告された。なお、監査報告会には、事務長、会計士が同席したことも報告された。

II-3 学術会議報告（杉山）

学術会議の現状の活動について以下のように報告された。学術大型研究計画の大幅な改訂が行われ、2014 年、210 個の計画、重点課題 25～35 個を選定した。物理学委員会では、物性一般物理、素粒子原子核、天文学宇宙物理の 3 つの分科会から 14 件が提案された。天文学分野では、学術シンポジウムを経て 8 計画を推薦する（SPICA, SKA, SolarC, LiteBird, JEM-EUSO, 南極望遠鏡等）。各分科会から推薦された計画を物理学委員で再評価し、さらに全体で評価する。会議の議事録は公開しないことになっている。大型研究計画のまとめは提出済みで、今期は中規模計画について決める予定。まず、5 月 28 日、29 日に中規模計画シンポジウムを行う。

これに対し、今回の学術大型研究計画をまとめた意義は、各分野で **National Project** がどうあるべきかの議論が始まったこと。例えば、地球や生物では盛んに将来計画が議論されるようになった。逆に、天文、物理はこれまでも大型計画を行ってきた経験があり、他分野よりもスムーズに計画提案されたが、今後は他分野との競争が激しくなると予想される。今後も良い計画を出していく努力が必要であるとの意見が出された。また、学術会議での議論の様子が外には見えてこないもので、議論の情報をもっとオープンにしてもらいたいとの要望が出された。

さらに、学術会議の活動としては、大学教育の質保証、理工系夢ロードマップの改訂にどう対応するのか、という質問に対し、学術会議連携会員を中心に対応す

ることになるが学会と連携して進めていきたいとの説明がなされた。

II-4 IAU 報告 (岡村)

IAU の最近の活動について以下のように報告された。再編された **division** の **steering committee** の電子投票が行われた。日本人は A の細川、C の関口、D の高橋のみ。今後、日本のプレゼンスを上げていく活動が必要である。新 **commission** の **Astrochemistry** の **vice president** に山本氏が就任する。また、電子投票の投票率は 25~45% (約 3 割) であった。日本人も含め、アジアからの選出が少ないが、**regional/gender balance** が大きく崩れるおそれがあるのが電子投票であるので、意識を高く持って、必ず投票するようにしてほしい。これに対し、日本はサイエンスでは頑張っているが、運営面でももっと貢献すべきである。今後は電子投票で投票が行われるので、意識的に投票を行うようにしてもらいたいとの意見が出された。

II-5 2012 年度早川基金報告(中村)

2012 年度は 5 名に交通費または滞在費の補助を行うことを決定したことが報告された。

II-6 PASJ の著作権と学位論文の取り扱いについて (茂山)

会長が契約書にサインし、OUP への PASJ 製作・販売委託契約が完了したことが報告された。PASJ 掲載論文の著作権についての取り決めは、現行と概ね同じであるが、最近機関リポジトリへの学位論文の登録が義務付けられ、現行の著作権に抵触する可能性が高い。そこで、PASJ に掲載された論文の著作権については E-Open 適用論文かどうかに分けて PASJ の方針を明確にし、公表することとした。PASJ にその一部または全文を公開した学位論文を機関リポジトリに登録する際、著作権表示を含み一切変更しないこと、電子版へのリンクを張ること、全著者の了解を得ること等の幾つかの条件を満たす場合には、日本天文学会に事前に申請・報告することなく、論文を登録可とする方向で協議中であることが報告された。最終的には、PASJ 編集委員会から著作権の最終案を理事に回し、意見を集約してから決定する予定であると説明された。

II-7 宇宙開発利用関係の新体制(井上)

日本における宇宙開発利用関係の新体制について以下の通り報告された。宇宙開発に関する体制を整備するため、内閣府の下に宇宙政策委員会が設置され、ここで国の宇宙開発利用の予算配分が議論されることになった。宇宙政策委員会の下に 4 つの部会が設置され、宇宙科学関係では宇宙科学探査部会が置かれた。先ごろ改訂された宇宙基本計画では、「宇宙科学には一定規模の予算を配分する」となっているが、その規模が議論されることとなる。天文関係者では櫻井がメンバー。一方、文科省の下には、宇宙開発利用部会が置かれ、今後の文科省の宇宙開発利用担当部分について審議・評価が行われる。天文関係者では、佐藤、井上がメン

バー。宇宙科学関係では、この宇宙開発利用部会の下に宇宙科学小委員会が設置され、天文関係者では山田、井上、常田がメンバーになっている。宇宙科学の「トップサイエンスセンター」構想等について議論が行われていく予定。

II-8 日本天文学会のホームページについて（櫻井）

日本天文学会の情報発信力を高めるため、ホームページの改訂が懸案となっていたがどうなったのか、という質問がなされ、本総会後に実務理事を中心に対応を検討する予定であることが説明された。

II-9 ジュニアセッションについて（中村）

3月に開催された春季年会では、ジュニアセッションが非常に盛況で、100部増刷して準備した予稿集が午前中にすべて配布し終えてしまい、予稿集が不足してしまったことが報告された。そのため、次回はさらに150部増刷するとともに、予稿集の電子版をホームページで公開する予定である。また、近年、参加者が多くなり、会場の確保が難しくなっており、運営面での負担が増していることが説明された。発表希望者が増え、1人当たりの発表時間が短くなってきており、今後、ジュニアセッションをどう運営していくかを検討する必要がある。

II-10 博物館等への援助について（百瀬）

県の博物館の財政が厳しく、企画展を開くのが困難になってきている。日本天文学会として、博物館等を含む社会教育への金銭的な助成や協力を行うことが可能かを検討欲しいという要望が出された。

これに対し、以下の様な意見が出された。日本天文学会100周年記念で巡回展をやって展示物の製作や提供は行ったことがあるが、定常的に進めるのは難しい。教育と普及は重要である。アメリカ天文学会やIAUは教育と普及に非常に熱心である。日本天文学会で同様の活動を継続的に行うのは現在では難しいが、外部からの寄付を募る等して積極的にサポートするべきではないか。

II-11 年会の予稿集について（山田）

3月21日に春季年会会期中に開催された代議員懇談会にて、年会時の発表内容と予稿の内容がしばしば異なることがあり、講演の完成度が低く感じる、予稿集締め切りが早すぎるのが原因の一つかもしれないので、予稿集の締め切りを遅くできないか調査するよう要望が出された。それを受けて調査したところ、現状の手続き（天文月報へのプログラム掲載。講演費事前支払いサービスの集計等）を継続しながら、予稿集の締め切りを遅くすることは技術的に難しいと報告された。プログラムの決定や予稿集の準備手続きをさらに見直し、年会の発表の質をより高くできるよう今後も調査を継続することとした。

II-12 会費について（中村）

3月21日に春季年会会期中に開催された代議員懇談会にて、会費の額の改定の可能性を調査するよう要望があり、それを受けて現在、理事会で検討を始めたこと

が報告された。現状では、現在行っている事業を継続することを前提とすると、会費削減は難しいことが説明された。

正会員と準会員の位置付け、および、年会費の見直しについて検討を継続することを確認した。

II-13 会務会計報告書等の電子化について（櫻井）

年度事業報告・決算報告等を天文月報に掲載する予定であるが、事業報告や決算報告等の資料を全部掲載すると、ページ数も膨大となり、コストもかかるので、日本天文学会のホームページに電子版資料を掲載し、天文月報には 1 ページ程度の簡易報告を掲載することとした。なお、正式な事業報告書や決算報告書は電子版となっており、簡易報告の掲載により、天文月報の印刷費節約もできると予想される。

III. 議題

III-1 公益社団法人日本天文学会 2012 年度事業報告書の承認（中村）

2012 年度事業報告書案が説明された。公益社団法人移行に伴い、2012 年度が 2012 年 12 月 28 日から 2013 年 3 月 31 日までの約 3 カ月と通常よりも短いため、それに応じて事業数が通常年度よりも少なくなっているが、社団法人日本天文学会の頃から行ってきた事業とほぼ同様の事業が行われたことが説明され、全会一致で承認された。

III-2 公益社団法人日本天文学会 2012 年度決算報告書の承認（熊谷）

2012 年度決算報告書案が説明された。サイトライセンス契約の未払いのため、購読料収益が約 30 万円減っているが、今後、未払い分の徴収により赤字分は解消するはずであること、年会費用は、非会員の発表件数の増加および年会開催地の努力により、会場費が低く抑えられたため 160 万円程黒字となったこと等が説明された。また、研究奨励賞の残額が約 260 万円、内地留学が約 170 万円に減っており、近い将来、財源を検討する必要があることが説明された。また、全体としては約 370 万円の赤字であることが報告され、全会一致で承認された。

[資料リスト]

資料 1 代議員総会出欠表

資料 2 公益社団法人 2012 年度監査報告書

資料 3 2012 年度早川基金採択者一覧

資料 4 学位論文の機関リポジトリ登録に関わる著作権の検討

資料 5 2012 年度公益社団法人日本天文学会事業報告書

資料 6 2012 年度公益社団法人日本天文学会決算報告書

2013 年 月 日

議 長：櫻井 隆 印

署名人：櫻井 隆 印